

1. 評価結果概要表

作成日 平成 22年 2月 28日

【評価実施概要】

事業所番号	0170502405		
法人名	有限会社 ケイアンドケイ		
事業所名	グループホーム こもれび		
所在地	札幌市白石区平和通15丁目北2-30 (電話) 011-863-8812		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成22年2月24日	評価確定日	平成22年3月10日

【情報提供票より】(22年 2月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 (平成) 15年 11月 25日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 14人、	非常勤 3人、 常勤換算 14.8人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2階建ての	1 ~ 2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費:18,000 円 暖房費:6,000 円(11-3月)	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(2月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	8 名	女性	10 名
要介護 1	2 名	要介護 2	5 名		
要介護 3	3 名	要介護 4	6 名		
要介護 5	2 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 82.6 歳	最低	63 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	クラーク病院・北楡病院・にひら歯科・紺野整形外科クリニック
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームこもれび」は、近くに川が流れている静かな自然環境に恵まれたグループホームである。建物はグループホームの専門家による設計で造られており、廊下や居間、食堂なども職員や利用者が過ごしやすい広々とした間取りで、家族が宿泊できる部屋なども準備されている。職員間の協力体制が充実し、コミュニケーションの良さは利用者へのケアにも繋がっている。介護計画は毎月利用者全員のカンファレンスを行い、本人の思いや意向に添った適切なケアが行われている。利用者は暖かい日差しを受けながら、居間やリビングなど好きな場所で、明るい笑顔でゆったりと穏やかに過ごしている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 日常の外出支援は、散歩や買い物、庭や玄関先で外気浴する機会を積極的に作るよう取り組んでいる。自己評価は、職員全員で2ヶ月かけて今回は取り組んでいる。水分、食事の摂取量は、全員毎日記録するように改善されている。看取りに関する文書の作成は、現在も取り組みの継続中である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 評価表を全職員に配布して記入してもらい、管理者が中心になってまとめ上げている。管理者は、職員の記入状況で各職員の日々のケアに対する考えや接し方を認識する事ができ、今後の指導の目安になると考えている。職員は日々の振り返りと、今後の目標設定ができたと感じている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、数人の家族などが参加して、2ヶ月毎に開催している。高齢者虐待についての勉強会の報告や外部評価の報告、地域と合同の避難訓練などが行われている。外部評価については、今後は事前に評価結果を配布して、参加者から有意義な意見をもらいサービスに活かして行く意向である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 季刊紙の「すずらん」を年間4回発行して行事や日々の様子などを写真やコメントで報告し、個々の様子は毎月手紙で報告している。家族からの意見や苦情は貴重と捉え、家族の来訪時には積極的に話しかけて意見や要望を言ってもらえるような雰囲気作りをしている。家族から出された苦情は申し送りノートに記録して、随時適切な対応を行うようにしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会に加入して、白石神社のお祭りや盆踊りに参加している。今年度は町内の避難訓練にも利用者と共に参加している。老人クラブの参加が契機となり、地域住民が毎月ボランティアで訪問して、ハーモニカ演奏や歌、昔話を聞くなどの交流も行っている。「子供110番」に加盟しているので、小学生がお礼に来訪する事もある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	住み慣れた地域で家庭的な雰囲気の下「その人らしい生活」ができるように援助するという法人共通のケア理念を作り上げている。今年度は「利用者の気持ちに、よりそった関わりを心がけ、努力・工夫をする」という事業所独自の目標と各ユニット目標を作成している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケア理念は各ユニットの居間の壁に掲示している。管理者は毎月のカンファレンスの中で、利用者の持っている力を引き出すためにはどのようなケアを行う事が大切か理念を踏まえて話している。また、職員は日々の仕事の中で、ケア理念を意識するように心掛けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して、白石神社のお祭りや盆踊りに参加している。今年度は町内の避難訓練にも利用者と共に参加している。老人クラブの参加が契機となり、地域住民が毎月ボランティアで訪問して、ハーモニカ演奏や歌、昔話を聞くなどの交流も行っている。「子供110番」に加盟しているので、小学生がお礼に来訪する事もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価表を職員全員に配布して2ヶ月程かけて記入してもらい、管理者が中心になってまとめ上げている。管理者は、職員の記入状況で各職員の日々のケアに対する考えや接し方を認識する事ができるため、今後の指導の目安になると考えている。職員は日々の振り返りと、今後の目標設定ができたと感じている。		外部評価の結果について全職員で話し合い、取り組み項目に関しては改善計画を作成するなど、積極的な取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、数人の家族などが参加して、2ヶ月毎に開催している。高齢者虐待についての勉強会の報告や外部評価の報告、地域と合同の避難訓練などが行われている。外部評価については、今後は事前に評価結果を配布して、参加者から有意義な意見をもらいサービスに活かして行く意向である。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	総合施設長が、書類の提出、介護保険の更新やおむつサービスの申請、研修の参加要件の確認など、市役所や利用者の出身区役所をできるだけ訪問して顔馴染みの関係を作り、サービスの質向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	季刊紙の「すずらん」を年間4回発行して行事や日々の様子などを写真やコメントで報告し、個々の様子は毎月手紙で報告している。職員の異動や離職の報告は季刊紙で行われているため、報告時期が遅れる事もある。金銭管理報告は毎月の個人の手紙と共に領収書の原本と小遣い帳のコピーを家族に送付している。		職員の異動や離職の報告が遅くならないように、随時家族に知らせるような取り組みを期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。家族からの意見や苦情は貴重と捉え、家族の来訪時には積極的に話しかけて意見や要望を言ってもらえるような雰囲気作りをしている。家族から出された苦情は申し送りノートに記録して、随時適切な対応を行うようにしている。		家族からの意見や要望などは、所定のノートなどにまとめて記録する事で職員間で内容を共有し、更にケアに役立てられるように期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者との顔馴染みの関係や家族との信頼関係を重視して、定期的な異動は行っていない。職員の異動や離職時は利用者には知らせているが、ダメージはないと感じている。新しい職員はいきなり利用者との関わりを深める事なく、掃除や食事の支度など、少しずつ利用者との距離を縮めて行くような工夫をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>内部研修は法人内で年間計画を作成して、高齢者の虐待や病気、栄養やリハビリに関する研修など、内容により外部から講師を招いて充実した研修が行われている。外部研修は研修内容により職員の段階に応じて参加させたり、情報を提供して個々の職員が希望する研修に参加させるようにしているが、一般職員の積極的な参加にはやや弱い面が感じられる。</p>		<p>経験年数に応じた内部研修の充実と共に、新人研修マニュアルを作成する意向なので、その取り組みを期待したい。また、全職員が積極的に外部研修に参加する事で、更なるケアの向上を期待したい。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>札幌市や区のグループホーム管理者会議や連絡会の研修に参加して、同業者と交流したり情報交換を行っている。また、同一法人内の他の事業所との間で合同研修や交換研修などを行う事で、サービスの質向上に努めている。他法人同業者との交流には一般職員も参加させる事を考慮中である。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>病院から利用開始するケースが多いため、総合施設長と計画作成担当者や職員など、二人で病院を数回訪問して本人と顔馴染みの関係を作るように配慮している。利用開始当初は、会話しやすい利用者と同じテーブルで食事をするように工夫したり、一人で居るのが好きな利用者には、居室で落ち着いてもらうなど、それぞれのペースで徐々に馴染めるように配慮している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、人生の先輩として思いやりの気持ちや気遣いを学んだり、以前の職業を活かした健康に関するアドバイスや人との関わり方、職員教育など利用者の得意分野の事をたくさん教えてもらう事が多く感謝している。また、気持ちが落ち込んでいた時に笑顔を見せてもらう事で、精神的にも支えられていると職員は感じている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉によるコミュニケーションが可能な利用者が多いので、会話の中から思いや意向を把握したり、話しかけた時の利用者の表情を見て把握するように努めている。また、外出に家族も同行してもらう事で、家族を通して利用者の希望や意向を把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	病院からの入居となるケースが多く、入居に当たっての介護計画は、家族および本人、医師や療法士からの情報を基に作成する暫定計画とし、1ヶ月間経過を見た後、職員全員が参加するカンファレンスでの討議を踏まえて本計画に修正する。さらに家族と意見交換を行って要望を取り入れ、承諾を得て最終計画とする。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態の日々の観察、本人の意向確認、家族との相談結果などを踏まえてアセスメントし、毎月のカンファレンスによって計画の見直しを行っている。失禁、利用者間のトラブル、健康状態、精神状態の変化などが生じた場合は随時職員間で話し合い、カンファレンス前であっても利用者の状態に沿って柔軟に対応している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族からの急な外出や外泊の要請があった場合でもできるだけ要望に沿い、時には車椅子やポータブルトイレを貸し出す事もある。希望によっては家族に宿泊室を提供している。法事や墓参りなどに送迎する事もある。点滴など、簡単な医療行為は訪問看護で対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>整形外科と内科の協力医療機関の医師が毎週来診するので、まずはその利用を奨めるが、本人・家族が他の医療機関を希望すればその受診を支援する。いずれの場合も受診には職員が同伴し、医師との間で情報交換を行う。家族が同行を望まない場合は家族を通じて医師に情報提供し、受診の結果を把握して適切な医療と介護の確保に努めている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居の際に重度化した場合の対応についての説明を行い、文書で確認を交わしている。看取りの可否など、終末期の対応については事業所の方針を現在検討中であり、明確な約束は保留しているが、多くの家族は、医療の必要性が高まった時は退去せざるを得ない事を暗に了解していると思われる。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>トイレ誘導などはあからさまな表現を避け、困難な所作や失敗などには気付かれないようにさりげなく支援や処理を行っている。馴れ合いで礼儀がおろそかになったり、思わずきつい口調になる事などを警戒して注意し合っている。記帳中の文書は露見防止に配慮し、個人情報の記録は他者の目に触れないように事務所に保管している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>昼食、夕食、食前の体操、入浴など大まかな日程はあるが、その他は利用者めいめいの過ごし方に任せている。起床や朝食は各自まちなちであり、日中は部屋でカラオケを歌ったりテレビを見たり運動したり、リビングでくつろいだりして自由に過ごしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>基本的な献立は管理栄養士が立案するが、適宜利用者の希望を入れて修正している。各人の希望に沿って盛り付けや量を調整し、品目の追加などを行っている。食材の買い物や準備、後片付けには利用者も参加し、味付けなどは利用者に教わるなど、役割を持って楽しめる努力をしている。食卓には職員も一緒に付いて会話を楽しみながら食事をしている。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は日曜日を除く毎日可能であり、必要があれば日曜も湯を沸かしている。各人、週3回をメドに入浴しているが、中に嫌がる方もおり、根気強い工夫と誘導で入浴を実現している。利用者の希望によっては同性介助の対応をしている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>各自の出来そうな事、やってみたい事を日々の関わりの中から見つけ出して、能力を発揮できるような役割分担を依頼して感謝の言葉を伝えている。食事、洗濯、掃除、畑仕事に関連した仕事を引き受けてもらっている。老人クラブへ通ってカラオケ、おやつ作り、リース作り、ボランティアによる歌や演奏などを楽しんでいる。</p>		
25	61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者の希望に沿い、体調や天候を見極めながら散歩や買い物、ごみ出しの機会などに外出している。庭や玄関先で外気浴をする事もある。月に一度は車で遠出をする。冬は極端に外出の機会は減るが、玄関先で外気浴をするなど極力外に出る機会を作っている。</p>		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>	<p>日中は表玄関、ユニットの出入口とも施錠はせず、チャイムの音で外出を察知している。利用者の習慣や普段の様子から不意の外出の可能性を把握しており、外出の気配があった時は一緒に付いて出たり、さりげなく声をかけたりして帰りを促している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火器や避難経路の確保などの設備点検、および日中と夜間それぞれを想定した避難訓練を合わせて年2回、消防署の指導の下に実施している。訓練には町内会の協力も得ている。これとは別に、町内会の実施する避難訓練には職員・利用者が参加している。避難退避場所には隣接の系列グループホームを想定している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は管理栄養士が作るため、栄養管理は行き届いている。利用者の状態に合わせて摂取しやすいようにとろみを付けたり柔らかめにしたりして対応し、必要に応じて代替のものや補食を取り入れている。食事量と水分摂取量は個別に記録しており、不足する時はコーヒー、紅茶、ゼリー、スープなどで補っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物はグループホーム設計の専門家による設計で、廊下、居間、食堂などは、一体化しつつも程よく分離した独立空間を形成している。空間の要所にソファやテーブルが配置され、気持ちの休まる憩いの場が用意されている。居室の向きもまちまちでそれぞれに個性を持った配置となっている。雛人形など季節を強く印象付ける装飾や、大きな日めくり、時計などで時の感覚を刺激する工夫がなされている。温湿度の管理も適切である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室のインテリアは家族の意向を中心に装備されているので部屋ごとに差は大きいですが、多くは使い慣れたタンス、鏡台、安楽椅子、装飾品、書画、写真、仏壇、テレビなどがしつらえられ、温かみのある居住空間が作られている。清掃も家族の意向を受けてまめに行われ、よく行き届いている。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。